

「品川駅から東海道へ(中)」

仙田直人

(品川女子学院高等学校校長)

今回は、最初に私が勤める品川女子学院を紹介する。本校は、1925（大正14）年に現在の漆紫穂子理事長の曾祖母に当たる漆雅子が荏原女子技芸伝習所として設立した。1929（昭和4）年には品川高等女学校となり、校長は第二次護憲運動で退陣した清浦奎吾首相の夫人である清浦鍊子が就いた。また、本校創始者雅子の父漆昌巖は、衆議院議員（立憲政友会）を6期務めたうえ、荏原郡品川町長にもなり、全国町村長会会長までなった人物である。昌巖は、品川の教育向上施策に尽力し、本校設立にも大きく貢献した。このように、本校は憲政史とも深い繋がりがある。

学校から第一京浜を渡って左折し、京浜急行北品川駅手前の踏切を渡ると旧東海道に出る。右折してすぐ左側のコンビニ前に、「土蔵相模跡」の碑が建つ。江戸時代の品川宿は、北品川宿・南品川宿・歩行新宿の3宿から構成されており、その規模は北品川駅から青物横丁駅辺りまでに及んでいる。

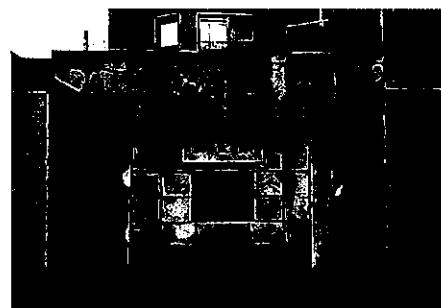
この土蔵相模は、「旅籠百軒」と呼ばれた品川宿の北端にあった海鼠壁の高級妓楼で、幕末の舞台にもなった。前号で紹介したイギリス公使館襲撃事件では、首謀者である高杉

晋作・伊藤博文・井上馨らが、桜田門外の変では事件を起こした水戸浪士が前日に投宿している。

ここから旧東海道を青物横丁方面に約200m歩き、左折して台場交番前の道を渡ると品川区立台場小学校である。この地は、1853（嘉永6）年のペリー来航の際、垂山反射炉を建設した江川太郎左衛門が計画した品川台場の一つである。台場は11基が計画されたが、財政難などで現存する第3・第6台場を含む5基が造られた。ここは、建設途中で中止された第4台場があった地で、小学校の5角形の敷地はその名残であり、校門前にレプリカの灯台が建つ。

小学校から戻り、旧東海道を左折したすぐ右側が、煉瓦塀で囲まれた法禪寺である。品川煉瓦の歴史は古く、1875（明治8）年西村勝三がガス灯に使うために製造したことに始まる。1903（明治36）年、渋沢栄一・團琢磨らが出資して北品川に品川白煉瓦株式会社を創業して更に発展し、漆昌巖もこの会社の取締役に就いている。その後も品川では煉瓦製造が継続され、今でも煉瓦塀等が多く残っている。

法禪寺から300m程南下した、東海道北品川交差点の左側が聖蹟公園である。この地は、江戸時代品川宿本陣が置かれた場所で、1868（明治元）年の天皇行幸の際に行在所となつた。1938（昭和13）年に公園として整備され、奥に御聖蹟の碑が建つ。



左から品川女子学院、台場小学校、聖蹟公園（御聖蹟の碑）